

林野庁 東北森林管理局 森林技術・支援センター

No.90(2022.08)

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

TEL : 0173-57-9022 FAX : 0173-69-2788

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

HP : <http://www.rinya.maff.go.jp>

/tohoku/syo/gizyutu/

森林技術・支援センターの取り組みを老人クラブに紹介しました

当森林技術・支援センターが所在する中泊町の老人クラブ連合会中里支部より講演依頼があり、令和4年7月29日（金）に、中泊町中央公民館で所長が講演しました。

当センターでは昨年度新築となった建物で業務を行っていますが、この度、地元の老人クラブから、2階建てのモダンな建物が最近できたがどのような仕事をしているのか、ぜひ会員に紹介していただけないかという要望があり実施されたものです。

当日は、老人クラブ会員約70名が参集し、うち8割を女性が占めるなか、講演会が行われました。

所長より、センターガイドと新築の際に国土交通省東北地方整備局で作成した当センターの建物の紹介資料をもとに、地元で馴染みの深い津軽弁を随所に織り交ぜつつ、当センターの役割や新築された建物の特徴、アウルや青森ヒバの復元、ドローンの活用にも触れながら、センターが取り組んでいる技術開発課題などを紹介させていただきました。皆さんは、センター業務の話よりもアウルの3D処理した画像やドローンの映像に興味津々の様子でした。

今後ともこのような機会に積極的に参加し、地域の皆様のご理解・ご協力を賜りながら、当センターの活動の周知と民有林への技術支援に努めて参ります。

（副所長 後藤）



（講演を熱心に聞き入るクラブ会員の皆さん）



（講演中の相馬所長）

増川ヒバ施業実験林の全本数調査について

森林技術・支援センターでは、例年6月頃、青森森林管理署、青森事務所と合同で、津軽半島にある増川ヒバ施業実験林で、青森ヒバの天然林における基礎資料の収集と施業効果の検証を目的として毎年継続して全本数調査を実施しています。



(増川ヒバ施業実験林入口の看板)



(実験林内のヒバ)

【増川ヒバ施業実験林とは】

青森ヒバの天然林施業は、青森営林局技師であった松川恭佐氏を中心となってヒバの調査研究を行い、昭和5年に「森林構成群を基礎とするヒバ天然林の施業法」を確立しました。そして、この施業法を実際に現地に適用し、施業効果を検証するために昭和6年に増川ヒバ施業実験林を設定しました。

【どのように調査しているのか】

増川ヒバ施業実験林では、様々な調査が実施されていますが、今回はその中でも毎年継続して行われている全本数調査についてご紹介したいと思います。具体的な方法としては、木の太さを測定するための道具である輪尺を使い、実験林内にあるヒバと広葉樹の直径を測定していきます。簡単な作業のように感じられるかもしれませんが、滑落するような急斜地や笹やぶが点在するなど歩きやすい場所ばかりではないことや、調査面積が9.35haと広大なため大変な作業となります。今年の調査ではセンターの職員も含め30名以上が参加しての調査となりました。

実験林は林班という単位で1～10の調査区域に分けられており、全本数調査では1年に1つの林班（約10ha）を順に調査しています。約90年も前から設定されている実験林より得られる情報は大変貴重です。今後も青森森林管理署、青森事務所と合同で調査を継続して参ります。

(業務係長 岡本)



(調査前の全体打合せ)

～編集後記～

気付けば稲穂が垂れており、朝晩と涼しくなった今日この頃、秋がだんだんと近づいてきたように感じます。いやいや、まだ暑いですが(笑)

さて、来月からは秋の試験地調査が始まり、センターが慌ただしくなる時期です。残暑に負けず、調査に励みます。

